

NO. 1 事業名 林道事業 [森林基幹道開設事業 (国補)]

箇所・地区名 よこおやま
横尾山線

平成22年度公共事業等事後評価調書

1. 事業説明シート(1)

(区分) 国補・県単

事業名	林道事業[森林基幹道開設事業(国補)]		事業箇所	北杜市高根町・須玉町		地区名	横尾山線		事業主体	山梨県	
(1) 事業着手年度	S62		(2) 事業期間	S62~H17		(3) 完了後経過年数	5年		(4) 総事業費	3,242百万円	
(5) 事業着手時点の課題・背景						(8) 事業位置図等					
<p>本路線は、県北部の北杜市高根町清里と北杜市須玉町小尾を結ぶ全延長20.7km、利用区域面積1,205haの森林基幹道である。利用区域内の55%がカラマツ・ヒノキ等の人工林であるが、その大半が間伐等の森林整備の適期であるため、本路線が整備されることにより効率的な森林整備が行われ、健全な森林環境の形成と地域林業の振興が図られる。</p>						<p>省 略</p>					
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果											
<p>(事前評価未実施)</p> <p><input type="checkbox"/> 主要目標 森林整備の効率化</p> <p><input type="checkbox"/> 副次目標 なし</p> <p><input type="checkbox"/> 副次効果 ① 林業生産力の向上 ② 防火帯の確保 ③ リサイクルの推進</p>											
(7) 整備内容(目標達成の方法)											
<p>森林基幹道の開設 実施延長20,724m、幅員4.0m</p>											

2. 評価シート（1）

<p>(1) 事業貢献度 〈 (良) ・ 不良 〉</p> <p>(理由) 林道が整備され、作業道と併せた路網が形成されるなど、木材搬出や森林整備を計画的・効率的に行う条件が整い、間伐などの施業が実施され健全な森林が形成されている。 また、間伐材を使用するなど、資源が有効利用されている。</p> <p>①主要目標：森林整備の効率化</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">指 標</th> <th style="width:30%;">着手時点数値等</th> <th style="width:40%;">評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐採対象人工林の割合</td> <td>設定せず</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>利用区域内の人工林率</td> <td>55%→設定せず</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分範囲内の人工林率</td> <td>設定せず</td> <td>54%</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価 基準値：伐採対象人工林の割合 36.5%以上 利用区域内の人工林率 69.9%以上 徒歩30分範囲内の人工林率 70.0%以上 林道を整備したことにより、伐採や森林整備など施業の効率化が図られた。</p> <p>②副次目標</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">指 標</th> <th style="width:30%;">着手時点数値等</th> <th style="width:40%;">評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設定せず</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項 目</th> <th style="width:80%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>林業生産力の向上</td> <td>林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。</td> </tr> <tr> <td>防火帯の確保</td> <td>防火帯（防火線）として必要な幅であるおおむね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。</td> </tr> <tr> <td>リサイクルの推進</td> <td>以前は林内放置となっていた間伐材の有効利用がなされた。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況 増富温泉郷と清里地域との連絡道として、登山者や観光客に広く利用されている。</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値	伐採対象人工林の割合	設定せず	74%	利用区域内の人工林率	55%→設定せず	51%	徒歩30分範囲内の人工林率	設定せず	54%	指 標	着手時点数値等	評価時点数値	設定せず			項 目	内 容	林業生産力の向上	林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。	防火帯の確保	防火帯（防火線）として必要な幅であるおおむね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。	リサイクルの推進	以前は林内放置となっていた間伐材の有効利用がなされた。	<p>(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈 (有) ・ 無 〉</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 20px;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項 目</th> <th style="width:30%;">着手時点の計画</th> <th style="width:50%;">事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>3,852 百万円</td> <td>3,242 百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td>S62~H18</td> <td>S62~H17</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>未算出</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>未算出</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>未算出</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5,903百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>6,672百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.13</td> </tr> </tbody> </table> <p>(要因変化の分析) 良好な地質条件であったことによる法面保護工の縮減、計画線形の比較検討による路側構造物の縮減、路肩の縮減などコスト縮減を図った結果、事業費が約16%減少し、工期が1年短縮された。</p> <p>(3) 事業実施による環境の変化 〈 (有) ・ 無 〉</p> <p>①自然環境への影響 ・公益的機能の向上 間伐の実施により下草など植生の繁茂による保水能力の上昇、降雨による表土の流出が少なくなるなど公益的機能が向上している。また、森林整備を行うことで健全な森林となり、地球温暖化防止に貢献している。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし。</p> <p>③環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合） なし。</p> <p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 〈 有 ・ (無) 〉</p> <p>①社会経済状況の変化 なし。 ②関連計画・関連事業の状況の変化 なし。 ③事業環境等の変化 なし。</p>	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	3,852 百万円	3,242 百万円	工 期	S62~H18	S62~H17	経済効率性	費用	未算出	便益	未算出	B/C	未算出			5,903百万円			6,672百万円			1.13
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																																		
伐採対象人工林の割合	設定せず	74%																																																		
利用区域内の人工林率	55%→設定せず	51%																																																		
徒歩30分範囲内の人工林率	設定せず	54%																																																		
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																																		
設定せず																																																				
項 目	内 容																																																			
林業生産力の向上	林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。																																																			
防火帯の確保	防火帯（防火線）として必要な幅であるおおむね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。																																																			
リサイクルの推進	以前は林内放置となっていた間伐材の有効利用がなされた。																																																			
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																																		
総事業費	3,852 百万円	3,242 百万円																																																		
工 期	S62~H18	S62~H17																																																		
経済効率性	費用	未算出																																																		
	便益	未算出																																																		
	B/C	未算出																																																		
		5,903百万円																																																		
		6,672百万円																																																		
		1.13																																																		

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
<p>(理由) 本地域は、林道が開通し森林整備を計画的に実施できる体制が整い、利用区域のほとんどが県有林であるため、県有林管理計画に基づいた森林整備が実施されており、間伐材の有効利用も図られている。 また、今後の森林整備計画についても確実に実施される見込であるため、事後評価を再度実施する必要はないと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法 ・ 時期： 年度 ・ 方法：</p>	<p>(理由) なし。</p> <p>(具体的反映策) なし。</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
<p>(理由) なし</p> <p>(具体的改善策) なし</p>	<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p>
<p>(既の実施した改善策の内容と効果) なし</p>	<p>(9) その他特筆すべき事項 なし</p>

3. 添付資料シート(1)



沿線の木材搬出状況



要整備森林の状況

3. 添付資料シート(2)



沿線からのハヶ岳の眺望



間伐材利用状況（丸太伏工）